

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

高血圧治療ガイドライン 2019

日本高血圧学会 高血圧治療ガイドライン 2019 (JSH2019) 作成委員会 (委員長: 梅村敏 労働者健康安全機構横浜労災病院院長)

ライフサイエンス出版、2019年4月25日発行

■1 漢方薬

疾患:

二次性高血圧 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

検査と診断の病歴の項に、下記の記載がある。

『これまでの血尿、蛋白尿、夜間頻尿など腎臓病を示唆する症状や非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)、漢方薬、経口避妊薬、免疫抑制薬、分子標的薬など血圧を高める薬剤の使用状況などを確認する。』

備考:

病歴の要点の表中に、二次性高血圧を示唆する情報として、薬剤: 非ステロイド性抗炎症薬、漢方薬、経口避妊薬などの記載がある。

■2 漢方薬 (甘草含有)

疾患:

治療抵抗性高血圧およびコントロール不良高血圧 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

高血圧治療における治療抵抗性およびコントロール不良高血圧の要因と対策の表中に、下記の記載がある。

『血圧を上昇させうる薬物や食品: 非ステロイド性抗炎症薬、副腎皮質ステロイド、カンゾウ (甘草) を含む漢方薬、グリチルリチン製剤、経口避妊薬、シクロスポリン、エリスロポエチ

ン、抗うつ薬、分子標的薬などを併用していれば、可能であれば中止あるいは減量する、各薬物による昇圧機序あるいは相互作用に応じた降圧薬を選択する。』

■3 漢方薬 (甘草含有)

疾患:

薬剤誘発性高血圧 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

高齢者高血圧の二次性高血圧の鑑別の項に、下記の記載がある。

『薬剤誘発性高血圧については、他院や他科での処方、健康食品やサプリメントに関する問診も重要で、カンゾウ (甘草) 含有物質 (漢方薬など) や非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) についての問診は必須である。』

■4 漢方薬 (甘草含有)

疾患:

二次性高血圧 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

二次性高血圧の項に、下記の記載がある。

『他疾患のために服用している薬剤にも注意が必要で、グリチルリチン酸 (肝庇護剤や甘草) や非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) に昇圧作用があることはよく知られている。甘草は漢方薬のみならず、S・M 配合散などの胃薬にも含まれている。通常は問題がないが、感受性の高い人や高齢者では低カリウム血症や高血圧の原因になりうるので注意する必要がある。』

■5 漢方薬 (甘草含有)

疾患:

偽性アルドステロン症 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

二次性高血圧のその他のミネラルコルチコイド過剰症の項に、下記の記載がある。

『漢方薬内服による偽性アルドステロン症は、甘草 (グリチルリチン酸) による 11β -水酸化ステロイド脱水素酵素 2 型の抑制により腎臓内に蓄積したコルチゾールによる MR 活性化により高血圧と低カリウム血症をきたす。』

■6 カンゾウ (甘草) 製剤、漢方薬 (甘草含有)

疾患:

薬剤誘発性高血圧 (副作用)

副作用に関する記載ないしその要約:

二次性高血圧の薬剤誘発性高血圧の項に、下記の記載がある。

『医療用薬剤のうち非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)、カンゾウ (甘草) 製剤、グルココルチコイド、シクロスポリン、エリスロポエチン、経口避妊薬、交感神経刺激薬などは血圧上昇作用を有し、高血圧を誘発するとともに、降圧薬との併用により降圧効果を減弱させる可能性が指摘されている。』

■7 漢方薬 (甘草含有)

疾患:

薬剤誘発性高血圧 (副作用)

引用など:

- 1) Cosmetic Ingredient Review Expert Panel. Final report on the safety assessment of Glycyrrhetic Acid, Potassium Glycyrrhetinate, Disodium Succinoyl Glycyrrhetinate, Glyceryl Glycyrrhetinate, Glycyrrhetinyl Stearate, Stearyl Glycyrrhetinate, Glycyrrhizic Acid, Ammonium Glycyrrhizate, Dipotassium Glycyrrhizate, Disodium Glycyrrhizate, Trisodium Glycyrrhizate, Methyl Glycyrrhizate, and Potassium Glycyrrhizate. *International Journal of Toxicology* 2007; 26 (Suppl 2) : 79-112.
- 2) 本間真人, ほか. 芍薬甘草湯と小柴胡湯の連用が血清カリウム値に及ぼす影響. *薬学雑誌* 2006; 126: 973-8.

副作用に関する記載ないしその要約:

二次性高血圧の薬剤誘発性高血圧の項に、下記の記載がある。

『カンゾウ (甘草)、グリチルリチン: カンゾウ (甘草) は肝疾患治療薬、消化器疾患治療薬、その他多くの漢方薬、健康補助食品、化粧品などに含まれている。グリチルリチンはコルチゾールを不活性のコルチゾンへ代謝する 11β -水酸化ステロイド脱水素酵素を阻害して、コルチゾールの半減期を延長して内因性ステロイド作用を増強させ、ナトリウムや水の貯留、カリウム低下をきたし、偽性アルドステロン症を発症する。グリチルリチンの投与量、投与期間、年齢 (60 歳以上) が本症の危険因子とされている。診断は、高血圧と同時に低カリウム血症を認め、低血漿レニン活性、血漿アルドステロン低値であれば (偽性アルドステロン症)、本症を疑う。患者自身から漢方薬、健康補助食品の利用が報告されることは少ないので、使用の有無については注意を要する。臨床的には数週間 (最大 4 ヵ月) の甘草摂取の中断、あるいは MR 拮抗薬の併用で改善する。』

<以上 6~7 の記載として>

備考:

薬剤誘発性高血圧の原因薬物と高血圧治療法の表中に、原因薬物: カンゾウ (甘草) グリチルリチンを含有する肝疾患治療薬、消化器疾患治療薬、漢方薬、健康補助食品、化粧品など高血圧の原因: 11β -水酸化ステロイド脱水素酵素阻害によるコルチゾール半減期延長に伴う内因性ステロイド作用増強を介した水・ナトリウムの貯留とカリウム低下高血圧治療への対策: 漢方薬などの減量・中止、MR拮抗薬と記載されている。

薬剤誘発性高血圧の POINT に、カンゾウ (甘草) の主要有効成分であるグリチルリチンを含む漢方薬や肝疾患治療薬、消化器疾患治療薬、健康食品などの使用で低カリウム血症を伴う高血圧 (偽性アルドステロン症) をきたすことがある。特に漢方薬使用時には注意する。血圧上昇がみられた場合には、これらの薬物の中止を考慮する。中止が困難であれば MR拮抗薬を用いる。と記載されている。